



# みずだより



編集・発行◆福岡市水道局総務課 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目28番15号 電話092-483-3139 ファクス092-482-1376 https://www.city.fukuoka.lg.jp/mizu/somu/ (年3回発行) 次回8月1日号

## 福岡市の水道は、創設100周年

福岡市の水道は、令和5年3月1日に、創設100周年を迎えます。水道局では、これまで水道事業を支えていただいた市民の皆さまへの感謝の気持ちをお伝えするため、令和5年3月までの間、「福岡市水道創設100周年記念事業」として、各種イベント等を実施します。

本号では、6月1日の「節水の日」を前に、“渇水”の克服(水資源確保)の歴史であった福岡市水道100年の主な出来事を、振り返ります。

大正12年

### 福岡市水道の創設

井戸の水質が悪く、感染症拡大の原因となっていたため、水道をつくることとなり、大正12(1923)年3月1日、曲淵ダムや平尾浄水場(現福岡市植物園)が完成し、福岡市の水道の歴史が始まりました。(当時の対象給水人口は約12万人)



平尾浄水場跡 (現福岡市植物園)

平尾浄水場は、“浄水通り”の名前の由来になっているよ!



水道局マスコット フクちゃん

イベント情報や100年のあゆみはこちら

100周年記念事業特設サイトを公開中です。福岡市の水道事業の歴史や100周年記念事業のイベント情報などを紹介しています。(随時更新)



昭和53年と平成6年

### 2度の大渇水

市内に大きな川がなく、水資源に恵まれていないため、昭和53(1978)年と平成6(1994)年に未曾有の大渇水に見舞われました。特に昭和53年の大渇水では、6月1日から6月10日まで



1日5時間しかじゃ口から水が出ませんでした。

この期間の初日である6月1日を「節水の日」と定め、併せて「節水シンボルマーク」(紙面右上)を作成し、毎年水の大切さを呼び掛けています。

昭和58年

### 筑後川からの受水開始

九州最大の河川、筑後川の水を利用させてもらうことは、水源地域・流域の方々や関係団体などの理解と協力を得て、昭和58(1983)年に実現しました。



福岡市が使用している水の1/3は筑後川から!

平成17年

### “まみずピア”からの受水開始



まみずピア

福岡地区水道企業団を事業主体とする国内最大の海水淡水化施設「海の中道奈多海水淡水化センター」(愛称:まみずピア)の運用を平成17(2005)年に開始し、福岡市も受水しています。天候に左右されず、安定的に水道用水を供給することができる施設です。

令和3年

### 五ヶ山ダムの完成

五ヶ山ダムは、昭和53年の大渇水を契機に計画され、令和3年1月に完成しました。福岡県内最大の貯水量を誇り、福岡市の関連ダムで水道などに使える水の容量がこれまでの約1.7倍になりました。異常渇水時にも、市民生活等への影響を大幅に緩和することができます。



五ヶ山ダム (平成30年3月 福岡県撮影)

これからの100年

### 水道局 デジタルライブラリー を開設しました

100周年記念として、水道局ホームページ内に開設しました。おうちから水道施設の見学などができますので、ぜひご覧ください。



### 第26回 KBC 水と緑のキャンペーン

100周年記念としてKBCとタイアップして、夕方の情報番組『シリタカ!』で、毎週“水”曜日に福岡市の水道にまつわる『なるほど!』を紹介しています。

ぜひ、ご覧ください!



未来へ、つなぐ。



キャッチコピー“未来へ、つなぐ。”先人たちの努力と、ともに歩んできた市民の皆さまや水源地域・流域の方々に感謝し、これからも安全で良質な水道水を供給し続けていくという決意を示しています。

### ロゴマークについて

「自然のめぐみの水」「暮らしの中を巡る水」「環境と共にある水」を表し、形を変えて巡る水の循環と、持続可能な水道を構築する使命を胸に、未来へ水のバトンをつなぐ意思を表しています。